

Title	七字慶紀教授 略年譜・業績
Sub Title	Biographical resume and list of publications
Author	
Publisher	慶應義塾大学藝文学会
Publication year	1995
Jtitle	藝文研究 (The geibun-kenkyu : journal of arts and letters). Vol.67, (1995. 3) ,p.1- 11
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	七字慶紀, 若林真両教授退任記念論文集
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-00670001-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

七字慶紀教授
略年譜・業績

略年譜

昭和五年（一九三〇）一月二十日 神奈川県逗子町に生まれる。

昭和十一年（一九三六）広島県呉市立片山小学校に入学。小学校時代には父の転勤とともに転校を繰り返す。

昭和十七年（一九四二）逗子町立逗子小学校を卒業し、神奈川県立湘南中学校に入学する。

昭和二十年（一九四五）第三学年修了をもって四月海軍兵学校に入校したが、八月終戦により湘南中学校に復帰する。

昭和二十二年（一九四七）湘南中学校卒業。

昭和二十三年（一九四八）第一高等学校理科乙類に入学。

昭和二十四年（一九四九）学制改革により第一学年修了をもって四月新制東京大学教養学部理科二類に入学する。この

頃ドイツ文学思想史研究の志を次第に固める。

昭和二十六年（一九五一）同大学教養学部教養学科ドイツ分科に進学する。

昭和二十八年（一九五三）同学科を卒業し、東京大学大学院人文科学研究科比較文化課程に入学する。

昭和三十年（一九五五）同課程修士課程を修了し、博士課程に進学する。

昭和三十四年（一九五九）同課程満了。横浜国立大学講師（非常勤）となる。

昭和三十六年（一九六一）東京農工大学専任講師となる。

昭和三十七年（一九六二）同大学助教授。

昭和三十九年（一九六四）アレクサンダー・フォン・フンボルト財団研究奨学生としてマールブルク大学、テュービンゲン大学、ワイマール古典ドイツ文学研究所に留学する。

昭和四十二年（一九六七）ドイツより帰国。

昭和四十七年（一九七二）東京農工大学教授。

昭和五十年（一九七五）慶応義塾大学文学部教授となる。

昭和五十五年（一九八〇）慶応義塾大学院文学研究科委員。

昭和五十七年（一九八二）交換プログラムによりケルン大学訪問教授。

昭和五十八年（一九八三）ドイツより帰国。

平成七年（一九九五）慶応義塾大学文学部教授定年退職。

業 績

論文

- 1 レーナウ「あしの曲」について。東大比較文学会「比較文学新聞報」第三輯第一号、第二号。一九五三
- 2 Die Geschichtlichkeit des Menschen in Herders Werk aus der Bückeburger Zeit. 「ドイツ文学」第二四号。一九六〇
- 3 ヘルダーの言語観について。「ドイツ文学」第二八号。一九六二
- 4 ゲーテとヘルダーにおけるヴィンケルマンの超克——古代美術の本質をめぐって。菊地栄一教授還暦記念論文集「ゲーテの比較文学的研究」所収。一九六四
- 5 Herder in Japan 「東京農工大学一般教育部紀要」第五卷三号。一九六九
- 6 ヘルダー思想研究ノート。「東京農工大学一般教育部紀要」第九卷一号。一九七三
- 7 Bekenntnis zu Herder. In: Bückeburger Gespräche über J. G. Herder 1971. Hrsg. von J. G. Maltusch, Bückeburg 1973
- 8 Bericht über die Herder-Forschung in Japan 1970-1975. In: Bückeburger Gespräche über J. G. Herder 1975. Hrsg. von J. G. Maltusch, Rinteln 1976
- 9 Herders Sprachdenken in seinen frühen Schriften. In: Bückeburger Gespräche über J. G. Herder 1979. Hrsg.

- von B. Poschmann, Rinteln 1980
- 10 最近におけるヘルダー研究の動向。「ゲーテ年鑑」第三三卷。一九八一
- 11 Geschichte und Offenbarung in Herders Bückeburger Schriften. In: Bückeburger Gespräche über J. G. Herder 1983. Hrsg. von B. Poschmann, Rinteln 1984
- 12 Festansprache auf der Hauptversammlung der Goethe-Gesellschaft in Weimar anlässlich des 100. Jubiläums ihrer Gründung. 「ゲーテ年鑑」第二八卷。一九八六
- 13 ゲーテ時代の言語観。「ゲーテ年鑑」第二八卷。一九八六
- 14 Herders Sprachdenken und Goethes Bildlichkeit der Sprache. In: Johann Gottfried Herder 1744-1803. Hrsg. von G. Sauder, Hamburg 1987
- 15 Grundzüge des Weltbilds Herders. 「藝文研究」第五二号。一九八八
- 16 Goethes Sprachauffassung in der Farbenlehre und im Westöstlichen Divan. 「ゲーテ年鑑」第二〇卷。一九八八
- 17 Herders Mythologiefassung und die“Älteste Urkunde”. Bückeburger Gespräche über J. G. Herder 1988. Hrsg. von B. Poschmann, Rinteln 1989
- 18 Mythologisierung der Geschichte bei Hamann und Herder. 「藝文研究」第五八号。一九九〇
- 19 Johann Gottfried Herder und Norinaga Motoori. Denker und Philologe in Ost und West. 「藝文研究」第六〇号。一九九一。(再録 Nr. 22)
- 20 Akten des VIII. IVG-Kongresses Tokyo 1990. 11 Bde. (Hrsg.) München 1992

- 21 ゲーテ時代の文学者達と旧約聖書をめぐる時代の状況。「ゲーテ年鑑」第三四巻。一九九二
- 22 Johann Gottfried Herder und Norinaga Motoori. Denker und Philologe in Ost und West. In: Johann Gottfried Herder. Geschichte und Kultur. Hrsg. von M. Bollacher, Würzburg 1994
- 23 Johann David Michaelis und Johann Gottfried Herder. In: Geschichtlichkeit und Gegenwart. Hrsg. von H. Esselborn und W. Keller, Köln 1994

研究発表・講演

- 1 Morgenröte について——ゲーテとヘルダーの場合。日本独文学会 第一四回総会研究発表会。一九六〇年五月
- 2 言語観から見たヘルダーの人間観。明大独文学会。一九六一年一二月
- 3 Herder-Forschung in Japan. ワイマール古典ドイツ文学研究所主催 日独シンポジウム。一九六六年九月
- 4 ヘルダーにおける「発展」の思想。日本ゲーテ協会研究会。一九七〇年一〇月
- 5 Die Bedeutung der Weltbetrachtung Herders. 第一回ビュッケブルク国際ヘルダーシンポジウム。一九七一年九月
- 6 Bekenntnis zu Herder. 第一回ビュッケブルク国際ヘルダーシンポジウム。一九七一年九月
- 7 Über den Geist des japanischen Gartens. ビュッケブルクライオンズクラブ。一九七一年九月
- 8 Aufnahme der Grundgedanken Herders in Japan. 北ドイツ放送。一九七一年九月
- 9 ドイツにおけるヘルダー研究の動向。日本ゲーテ協会研究会。一九七一年一月

- 10 ヘルダー研究とその問題点。ヘルダー研究会。一九七二年五月
- 11 ヘルダー「人間性形成のための歴史哲学異説」について。芸文学会。一九七五年六月
- 12 Bericht über die Herder-Forschung in Japan 1970-1975. 第二回ビュッケブルク国際ヘルダーシンポジウム。一九七五年九月
- 13 第二回ビュッケブルク国際ヘルダーシンポジウム報告。ヘルダー研究会。一九七六年五月。
- 14 若きヘルダーのポエトロジー。日本独文学会秋季研究発表会シンポジウム。一九七六年一〇月・
- 15 Herders Sprachdenken in seinen frühen Schriften. 第三回ビュッケブルク国際ヘルダーシンポジウム。一九七九年九月
- 16 第三回ビュッケブルク国際ヘルダーシンポジウム報告。ヘルダー研究会。一九八〇年五月
- 17 ヘルダーにおける神の問題。日本一八世紀学会。一九八一年六月
- 18 Geschichte und Offenbarung in Herders Bückeburger Schriften. 第四回ビュッケブルク国際ヘルダーシンポジウム。一九八三年九月
- 19 Herders Sprachauffassung und Goethes Bildlichkeit der poetischen Sprache. ドイツ一八世紀学会。ザールブリュッケン 一九八四年一〇月
- 20 ゲーテ時代の言語論の状況。日本独文学会第三九回総会シンポジウム。一九八五年五月
- 21 Festansprache anlässlich des 100. Jubiläums der Gründung der Goethe-Gesellschaft in Weimar. フイヴールゲ
ーテ協会創立一〇〇年記念総会。一九八五年六月

- 22 Herders Mythologieauffassung und die "Älteste Urkunde". 第五回ビュッケブルク国際ヘルダーシンポジウム。
一九八八年九月
 - 23 第五回ビュッケブルク国際ヘルダーシンポジウム報告。ヘルダー研究会。一九八九年五月
 - 24 Goethe-Forschung in Japan. ワイマール。フランクフルトアルゲマイネ紙。一九九一年六月
 - 25 詩の言葉と科学の言葉——ゲーテの場合。日本ゲーテ協会富山支部大会。一九九一年一月
 - 26 Johann Gottfried Herder und Norinaga Motoori. Denker und Philologe in Ost und West. 国際ヘルダー学会。
ホームページ 一九九二年六月
 - 27 Goethes Sprachdenken aus japanischer Sicht. デュッセルドルフゲーテ研究所。一九九三年九月
 - 28 Poetologie und Hermeneutik bei Herder. 国際ヘルダー学会。ワイマール 一九九四年八月
 - 29 Mythologie in Gegenwart in Japan. ワイマール。ドイツ放送。一九九四年八月
- 翻訳・編著**
- 1 ヘルダー「人間性形成のための歴史哲学異説」。「世界の名著」続7 中央公論社 一九七五年（共訳）
 - 2 J. G. Herder: Über den Ursprung der Sprache. 三修社 一九六二年
 - 3 A. Schweitzer: Kraft der Humanitätsgesinnung. 同学社 一九六二年
 - 4 R. v. Koerber: Begegnung mit Japan. 朝日出版社 一九六七年

解説・評論・その他

- 1 ハイデガー「芸術作品のはじまり」解説。ハイデガー選集第二二巻。理想社 一九六一年
- 2 フリツラーを訪ねて。日本ゲートル協会「ベリひて」第六号。一九六五年
- 3 マールブルク大学。「国際文化」第一五五号。一九六七年
- 4 ビュッケブルク国際ヘルダーシンポジウムに出席して。「ドイツ文学」第四八号。一九六七年
- 5 ヘルダー「言語起源論」。「言語」第一巻七号。一九七二年
- 6 万有百科辞典「G・A・ビュルガー」、「J・G・ヘルダー」、「J・メーザー」の項。小学館 一九七三年
- 7 芳賀徹「大君の使節」。「慶応義塾大学報」一九七五年八月
- 8 私と運転免許。「慶応通信」一九七六年五月
- 9 シュバイツァーのヒューマニズム思想。「三色旗」一九七六年七月
- 10 玉虫色の概念の魅力。「三田評論」一九七六年七月
- 11 フリードリヒ大王の「ドイツ文学論」。「ひろの」第一六号。一九七六年
- 12 ゲートルの刻印の跡を訪ねて。「慶応義塾大学報」一九七六年一二月
- 13 「ヘルダー研究会」のこと。「ひろの」第一九号。一九七九年
- 14 ヘルダーと宣長。「ベリひて」第二二号。一九八〇年
- 15 イルムシャー教授を迎えて。「ベリひて」第二五号。一九八四年
- 16 Auch ich bin Weimaraner。——ワイマールゲートル協会創立一〇〇年記念大会のこと。「ベリひて」第二七号。一

九八六年

- 17 車内ウオッチングの愉しみ。「慶応通信」一九八六年七月
- 18 霖雨。「三色旗」一九八六年九月
- 19 マインツに想う。「三色旗」一九八七年三月
- 20 菊地栄一先生の訃。「べりひて」第二八号。一九八七年
- 21 変化のなかにあつて存在の原点を。「慶応通信」一九八七年一二月
- 22 「贈る言葉」考現学。「三色旗」一九八八年三月
- 23 Erich Ruprecht : Geist und Denkart der romantischen Bewegung. 「ドイツ文学」第八一号。一九八八年
- 24 ミネルヴァの梟は黄昏に。「慶応通信」一九八九年一〇月
- 25 歴史のダイナミズムに想う。「慶応通信」一九九〇年一二月
- 26 私の日本地図。「三色旗」一九九一年一月
- 27 ワイマールへの旅。一九九一年夏のゲーテ協会総会。「ラテルネ」第六七号 一九九二年
- 28 Arten des VIII. IVG-Kongresses Tokyo 1990. 11 Bde. の編集を了えて。「ドイツ文学」第八八号。一九九二年
- 29 ヘルダー学会余聞。「べりひて」第三四号。一九九三年
- 30 「外郎」物語。「三田文学」三七号。一九九四年